

平成30年度福岡市歯科口腔保健推進協議会 議事録

- 1 開催日時 平成31年1月29日(火) 14:00～15:00
- 2 開催場所 天神スカイホール ウェストルーム
- 3 会議次第

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 開会2 挨拶(会長)3 報告<ol style="list-style-type: none">(1) 福岡市歯科口腔保健推進の進捗状況について(2) 福岡市歯科口腔保健関連事業の実施状況について4 議題
福岡市歯科口腔保健推進における今後の取組みについて<ol style="list-style-type: none">(1) 「12歳児の一人平均むし歯数の減少」に向けて(2) 「定期的に歯科医院を受診する者の割合の増加」に向けて5 閉会 |
|--|

- 4 出席委員 15名
欠席委員 5名
- 5 報道機関取材者及び傍聴者
報道機関：無 傍聴者：無
- 6 議事概要(次頁以降のとおり)

事務局	<p>【報告 1、2】資料に沿って説明。</p> <p>【議事（1）「12歳児の一人平均むし歯数の減少」に向けて】</p>
会長	<p>明確なデータのある12歳児で一人平均むし歯数は右肩下がりであるが、全国と比較すると、福岡市の状況は決して良いとはいえない。資料2には厚生労働省が推進している歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の目標について記載してある。「⑱12歳児の一人平均う歯数が1.0歯未満である都道府県の増加」という目標は、12歳児で一人平均むし歯数を1.0本まで減らしていこうという趣旨で設けられたものであるが、設定当初は達成しているのが7都道府県程度であったことから、目標年の平成34年には、約6割にあたる28都道府県での達成を目指すことになった。その後12歳児で一人平均むし歯数は大きく改善し、今では、すでに目標を達成しており、28都道府県という目標では、低すぎるという意見から、目標を再設定し、全ての都道府県で1.0本未満を目指すことになった。しかし、この1.0本未満のラインに福岡市は入っていない。一般的に、むし歯は都市部で少ない傾向にあることが報告されているが、福岡県では、政令指定都市の福岡市と北九州市が福岡県全体より少し数値が低く、他が高いため、相殺して、1.0本を切るかどうかという状況である。全国平均が0.82本ということを見ると、福岡市の1.01本という結果は決して良好とはいえない。</p>
委員	<p>学校歯科医会、教育委員会がともにタッチしていることが大事。むし歯よりも歯肉炎、不正咬合が多くなっている。ただむし歯を減らせばいいのではなく、口腔内を改善するということが大事だ。フッ化物洗口が各自治体で実施されているが、フッ素そのもの自体はむし歯を減らすという要素はあると思うが、フッ素だけをすればいいと思って、磨かないことに繋がることもある。口腔衛生の意識を植え付けるということが大事である。</p>
委員	<p>中学校に勤務しているが、自分個人の意見としては、福岡市でむし歯が多いのは、小学校から中学校にかけて、子どものライフスタイルが変わってくることにあると思う。部活や塾などで毎日忙しい。小学校に比べ、親の目が行き届かない部分もあり、親の目を離れて自己管理的な面が出てくる。都市部でむし歯が少ないデータがあるという話だったが、一概にはいえないとは思うものの、そのように想像する。学校で歯科健診をしていただいているが、むし歯がある子とない子の差が大きい。むし歯を次年度に持ち越している子もいる。歯に意識が高い親御さんも多く、歯科医院への受診勧奨をすれば行っていただける一方で、全くそうしたことがない家庭もある。こうした家庭の差もあると思う。</p>
委員	<p>3歳児ではむし歯の状況はよく、小学校で改善がみられないということは、小さい頃は、親が頑張るが、大きくなると本人に任せている状況になるといったように、親との関りが大事になると思う。小学校2年生や高学年にブラッシング指導をしているが、本人には直接教えるが、保護者には資料のみが手元に行く。小学校くらいまでは、保護者が関わるような策を考えると違ってくると思う。授業参観など他の学校行</p>

<p>会長</p>	<p>事の際に親にも参加してもらい、一緒に取り組むのはどうか。</p> <p>たしかに一人平均むし歯数は、一部にむし歯が多い子がいると、平均値が下がっていかない。しかし、福岡市はむし歯のない者の割合も全国値に達しておらず、むし歯のない者が必ずしも多いとは言えない。つまり一人あたりのむし歯の本数だけでは、この状況は説明がつかない。この現状を踏まえておくべきである。フッ化物だけを使ってむし歯を減らせばいいという事ではなく、歯磨きの指導は大事である。ただ、歯磨きだけでむし歯を予防できるかという、難しい。口腔清掃の習慣を身に付けていくのは大事である。しかし、それを補うかたちで、その他のむし歯予防を行っていくことも大事である。</p>
<p>委員</p>	<p>福岡市でも学校関係歯科医師会の先生方をはじめ、ご尽力されていることと思う。福岡市の12歳児のむし歯の数値が特別低い数値とは思わないが、議題として挙がっていることを鑑みると課題として捉えられているものであると思う。全国では、むし歯が少ない地域もあるかと思うが、むし歯罹患の状況が良くなっている地域での取り組みの好事例をご存知であれば、教えていただきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>佐賀県の事例を挙げたい。佐賀県では、平成13年時点では、3歳のむし歯が多いことで有名で、ワースト3に入っていたが、その後フッ化物洗口が広まり、むし歯の状況が激変している。現在では、100%近い施設でフッ化物洗口されており、むし歯の少なさでも上位に入っている。この事例からフッ化物洗口をすれば、むし歯数が減少するということがわかる。また、新潟県の事例も有名である。</p>
<p>副会長</p>	<p>むし歯数の数値を下げるための処置はフッ素しかないと思う。今はむし歯だけの問題ではなく、口腔機能発達不全症についても問題となっている。口腔を管理する習慣づけという面から東京都豊島区では健康教育を取り入れている。これは、医科、歯科、食育等を総合的に推進していこうというものだ。口腔機能の維持、口腔機能発達不全症の予防のために、定期的な口腔管理をかかりつけ歯科医で行うことが大事だ。そういうことを含めて幼稚園くらいから健康教育を市民に伝えていくことが大事である。</p> <p>今年度、市政だよりの特集を市が実施されたが、市民の方の行動変容を起こしたと思う。毎年6月の「歯と口の健康週間」にあわせ、「福岡市民の健康を歯と口から守る集い」を行っているが、今年度は民間の広告を使用しなかったにもかかわらず、昨年度と同程度の来場者の方が来られた。手に市政だよりを握りしめている方もいらっしまった。こうしたことから、行政からの市民への啓発の重要性がみえてくる。</p>
<p>委員</p>	<p>今後も一委員として、啓発に協力していきたい。</p>
<p>会長</p>	<p>保護者からの反対があつてフッ化物洗口が進まないということを聞くが、逆にやりたいという意見もあると思う。やりたいという意見とやりたくないという意見とどちらが多いか調査してみてもどうか。やりたくないという意見によってやりたいという意見の人までできないというのはどうかと思う。学校健康診断では、実施前に保健調査をするように指示を受けていると思うが、フッ化物塗布を受けている人、いない人または</p>

	フッ化物洗口やりたい人、やりたくない人の調査をしたらどうか。
委員	保健調査は歯科以外の項目も合わせ、全員からとるものである。フッ素について聞くかどうかは学校側で決められることではない。
委員	フッ化物洗口を全員参加で実施するとやらない子供がいじめの対象となりやすい。全員にやらせるということは不可能である。
会長	実施しない子供は水で洗口するなど、他の実施学校ではされているし、全員ではなく、大部分希望があるということで、全体を動かしている。
委員	そういったことは教育委員会が把握されている。教育委員会がきて、意見を述べていただければと思う。
委員	学校では、やりたい・やりたくないということを聞くべきではないと思う。私は反対である。それは保護者の判断である。フッ化物洗口は医療の領域であり、学校現場が足を踏み入れるのは躊躇しているところだ。
会長	環境をつくっていくことも大事である。
委員	子供たちは、部活動などで忙しく、面倒くさいから歯を磨かないということもある。歯の健康を守るには、それぞれの家庭で意識を高めていかなければならない。学校でも先生方から、働きかけてほしい。
会長	こうした議論は積み上げていくことで前進していくものである。今後とも協議し、検討していければと思う。
	【議事（２）「定期的に歯科医院を受診する者の割合の増加」に向けて】
会長	歯科節目健診の受診率は上昇していない。その一方で歯科医院への定期受診の割合は上昇している。市民への広報が、歯科医院の定期受診につながっている可能性はあると思う。現在の歯科医院の受診状況はどうか。
副会長	変わらないように思う。学校歯科医を３０年以上している。検査だけでなく、指導が大事だ。歯科医院に来ていただければ、指導までする。１歳６か月児健診から歯科健診が始まるが、福岡市は他の自治体より開業医は多いので、開業医を有効活用していけば、良好な口腔の健康状態が続いていくのではないかと。学校歯科医をしていて感じるのは、中学校１～３年にかけて、混合歯列期から永久歯列へと移行していく過程で、顎変異をおこしている子供達が多いことだ。習慣性の咀嚼、片噛みしている、姿勢が悪いなどについては、そういったケースには一人ひとり指導していく。そういったことも含めて、健康教育を、学校の授業の中でとなると難しいことは認識をしているが、そうでない場合は、歯科医院に来てい

	<p>ただいて、いろんな相談や、いろんなお話、例えば、食育も歯の萌出状況に合わせて食べ物を変えていくといったような情報を発信し、一般のお母さん達に様々な知識をもってもらうことから始めるとよいのではないかと。健康寿命には歯科口腔保健が関わってくる。そういった指導伝達の間を作るのが大事なのではないか。それは、定期的に歯科医院を受診することにつながる。一度指導をすると3か月くらいはモチベーションが続くが、4か月すると低下してくるといわれている。これから、3～4か月が理想的な歯科医院への定期的歯科受診の間隔である。現実には、難しいのでせめて年に1～2回でもというように指導しているところだ。</p>
委員	<p>20歳代が歯科節目健診を知った理由として「その他」が多いが、これは何か特定の媒体があるのか。今後、スマホからの発信、例えば、誕生日に、「おめでとうございます、歯科節目健診の年になりました。実施歯科医院の検索はこちらからどうぞ」とメッセージを送るなどすれば効果があるのではないかとと思うので、ご検討いただければよいのではないかと。また、30歳代、40歳代では、ダイレクトメールからの周知が多いが、これ以前にもっと他のことで、知識が入っていればよいのではないかとと思う。</p>
事務局	<p>20歳代の方へは、何か特定の媒体があるわけではなく、「その他」としては、「家族からの情報で知った」ということであった。</p>
会長	<p>この場にお集まりの方々で、年に1回定期的に歯科医院に治療ではなく、歯科健診に行っている方は挙手を願いたい。</p>
会場	<p>(該当者挙手)</p>
会長	<p>半分程度の方が行っているようであるので、資料のデータは正しいといえるのではないかと。まずは、自分の口腔の状態を客観的に知ることが大事である。例えば、職場の上司が定期的な歯科健診の重要性を理解していれば、部下の方も行きやすい環境になるのではないかと。社会がそういった認識をもっていくように働きかけることが大事である。セルフケアのみで大丈夫だと思い込んでいる方もいるが、自分の歯ブラシのみで口腔ケアをしていると、歯間ブラシやデンタルフロスを使用した際に歯ぐきから出血するようになる。歯ブラシのみで口腔管理することは不可能である。一方で、歯間ブラシやデンタルフロスは有用であるが、使い方を間違えると、歯ぐきを痛めてしまう。そういう意味では、しっかり自分のどの部分にどういう道具を使用すればよいか、同じ歯間ブラシでもサイズが様々であり、28本歯があれば、28か所全部が違う状況にあるので、それぞれの状況を歯科医院でしっかり客観的な目で評価してもらうことが大事である。セルフケアを始めるには、まず、プロフェッショナルケアで、指導を受けることが重要になる。そういう認識を社会でしっかり根付かせていければと思う。自分が所属している口腔衛生学会では、学会声明で生涯28本を打ち出している。これまで8020運動というものがあったが、これは、「20本、歯を保ちましょう」という運動であるが、20本歯を保てば、8本は失ってもよいという逆の安易な考え方に繋がってしまう。1本抜けてしまったときに、自分はなぜ抜けたのか、しっかり危機感を持っていただければ、1、2本でとどめることができると思う。放置して、3本、4本とどんどん抜けてしまい、しかしまだ20本までは大丈夫だね、というような認識</p>

ではない感覚を市民が持っていただけるような社会になればと思う。そのために、歯科医院でしっかりプロに定期的に見ていただく、決してむし歯になったから行くというのではなく、歯が抜けないように、むし歯にならないように受診することが重要で、歯科医院側も今では、そのように患者さんに接するようになっている。それを社会に理解していただくことが重要である。歯科医院への通院というのは、受診行動とは違うところにおちついてきているということだ。定期的に通院する者とは、そういった意味である、ということをご理解いただければと思う。

(議事終了)